

rkk.jp
RKK ON THE WEB

いい音と、いい情報が、
僕らの毎日を楽しむ。

木村和也
(月~金)

野満美子
(木・金)

長船なお美
(月~水)

グルメ、スポーツ、まちの話題、
すてきな情報のハーモニーをお届けします。

夕方いちばん

RKKテレビ
毎週月~金曜 夕方4時45分

熊本の最新ニュースをお届けします。

News

RKKテレビ 毎週月~金曜 夕方6時16分



佐々木慎介 宮脇利充 岡村清香



http://rkk.jp
i-mode・Vodafone live!
EZ-WebからもアクセスOK

ベートーヴェン

第九

第23回

平成17年12月25日(日)午後6時15分

熊本県立劇場コンサートホール

主催/熊本県民第九の会・熊本県文化協会

助成/(財)熊本県立劇場

後援/NHK熊本放送局・熊本日日新聞社・RKK・FMK・熊本CITYFM



熊本県知事

潮谷 義子



熊本県立劇場館長

古田 勝人



熊本県文化協会会長

小堀 富夫



熊本県民第九の会実行委員長

草刈 秀士

第23回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

昭和57年に熊本県立劇場の開館を記念して始まったこの演奏会は、熊本の年末を飾るステージとして、毎年多くの県民の方々に感動を与え続けています。

熊本の「第九」の大きな特色は、第一線で御活躍のプロの指揮者・ソリストの方々と、地元の誇る芸術団体である熊本交響楽団、そして県内で公募された300名余りの合唱団員の皆様とが一体となって創り上げるステージだということです。まさに本県の文化芸術活動の水準の高まりと裾野の広がりを体現するものであり、誠に意義深いものであると思っております。

「芸術を高め、文化を広める」ことは、本年度から民間と行政とのパートナーシップにより開催している「熊本県芸術文化祭」の理念でもあります。9月から4か月にわたり多彩な行事が繰り広げられた本年度の熊本県芸術文化祭も、この「第九」演奏会で閉幕となります。県民の文化的なパワーの結集ともいべきこの演奏会にフィナーレを飾っていただくことを大変うれしく思いますとともに、新たな年を迎えるにあたり、本日お集まりの皆様には今後とも文化活動に積極的に御参加いただき、本県文化のさらなる振興の一翼を担っていただきますようお願い申し上げます。

最後に、本日の演奏会の御盛会と皆様のますますの御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

第23回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催おめでとうございます。

ベートーヴェン「第九」は、県民の皆様により熊本県立劇場の落成を祝って誕生した文字どおり県民の手づくりコンサートで、県立劇場といたしましても、この23年間一緒に歩ませていただきましたことをとても幸せに思います。特に、平成4年には県立劇場10周年記念「ガラコンサート」の「第九」演奏会にご出演いただき、ホールの祝典を飾っていただきました。

当初から熊本交響楽団の皆様が力強い響きで演奏されるなか、合唱は毎年県内からの公募により、300名に及ぶ大合唱団を結成されるのが熊本の大きな特長です。例年夏からたくさんの練習を重ねられ、オーケストラと合唱がひとつになって本番に臨まれます。今までに多くの県民の皆様がご参加されましたが、このハイレベルの演奏会を成功させるためのご苦労は大変なものと推察いたします。あらためて敬意を表します。

喜びも悲しみも織り交ぜて時は回っていきます。「たがいに手を取り合おう、億万の人々よ！」と歌うこの演奏会は、今や熊本の年末を彩る素敵な風物詩となっています。

本日のコンサートのご成功と、皆様方の今後ますますのご発展をお祈りいたします。

熊本県立劇場の落成を記念して始まった「県民第九の会」の演奏会も今年で23回となります。

演奏は最初から熊本交響楽団が担当していますが、合唱は一般から公募した熊本県民第九の会合唱団が担当されています。

毎回300名ちかい合唱団は年々少しずつ入れ替わっていかれますので、今回までおよそ2,000名の方々が、12月の県立劇場で声高らかに「歓喜の歌」を歌われているわけです。

ソリストも熊本ゆかりの人々の出演も多く「県民総参加型」の第九演奏会ではと思います。

またこのように公演に参加された方以外の客席が演奏を聞いて頂いた方も延べ何万人にも達するわけで、この方々の御支援のおかげで今日まで来たわけで深い敬意を表します。

今年は指揮に田代詞生さん、そしてソリストに三縄みどり（ソプラノ）・妻島純子（アルト）・大間知覚（テノール）・佐久間伸一（バリトン）の各氏が出演されます。これらの方々を迎えて今年も素晴らしい演奏が聴けると思い楽しみにしています。

出演者・お聴き頂く聴衆の皆さん、そして今まで多くの苦労を重ねてこられた「第九の会実行委員会」の草刈秀士委員長はじめ実行委員の方々にも感謝申し上げます。

本日は年末のお忙しい中ご来場戴きましてありがとうございます。

今年の熊本は猛暑が続き、真夏日の期間も過去最高を記録しました。アメリカで大被害をもたらしたハリケーンも地球の温暖化が影響しているものと思われませんが、この地球の温暖化を抑止するための京都議定書にアメリカは国内産業保護のため署名を拒否しています。

また、イラクの終止符の無い連日のような爆弾事件、フランスおよび周辺国に広がっている若者の大放火事件など、また、国内でも今まで想像もつかないような異常な事件もニュースされていますがいずれを考えると人間のエゴ・人類のエゴに起因しているのではないのでしょうか。

このままでは地球も人間社会も世紀末に向かうような気がしてなりません。お互いに思いやりの心をもって住み良い社会、将来に希望が持てる明るい世界が創れないものでしょうか。一人一人の力は小さいけれど一人一人が意識を持ち周囲に広めて行かなければ良い方向には進みません。

「すべての者は同胞となる」「互いに手を取り合おう億万の人々よ！」第九のシーラーの詩を読んで戴き、年末にお互いに1年を振り返り、将来に向けて新たな決意の機会になれば、今日の演奏会も更に意義が深まるのではないのでしょうか。

県文化協会・県立劇場はじめ多くの皆様方に支えられて第九の演奏会が続けられることに感謝を申し上げます。皆様良い新年をお迎え下さい。

指 揮 田 代 詞 生
独 唱 ソプラノ 三 縄 み どり
 ア ル ト 妻 鳥 純 子
 テ ノ ー ル 大 間 知 覚
 バ リ ト ン 佐 久 間 伸 一
合 唱 熊 本 県 民 第 九 の 会 合 唱 団

合唱指揮 林 原 隆 治
 工 藤 勇 壹
 松 岡 聡
ピアノ 古 閑 恵 美
 真 田 眞 澄
 浜 田 志 貴
 林 原 ゆ り

管 弦 楽 熊 本 交 響 楽 団



指 揮 田 代 詞 生 (たしろ つぎお・Tsugio TASHIRO)

北海道出身。

日本大学芸術学部音楽学科(作曲)卒業後、ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽院(指揮科)に留学。1987~92年の間、指揮研究員としてウィーン国立歌劇場に所属すると同時に、ザルツブルク音楽祭にてホルスト・シュタイン氏、およびワルター・ハーゲン・グロール氏の副指揮者、ウィーン芸術週間にてホルスト・シュタイン氏の副指揮者を務める。

さらに、ヘネシー・オペラシリーズ、サイトウ・キネン・フェスティバルにて小澤征爾氏の副指揮者を務める。

帰国後、日本フィル、新日本フィル、東フィル、東京都響、神奈川フィル、大阪センチュリー、名古屋フィル、群響、広響、札響をはじめ、各地の主要プロ・オーケストラを客演指揮、好評を博す。

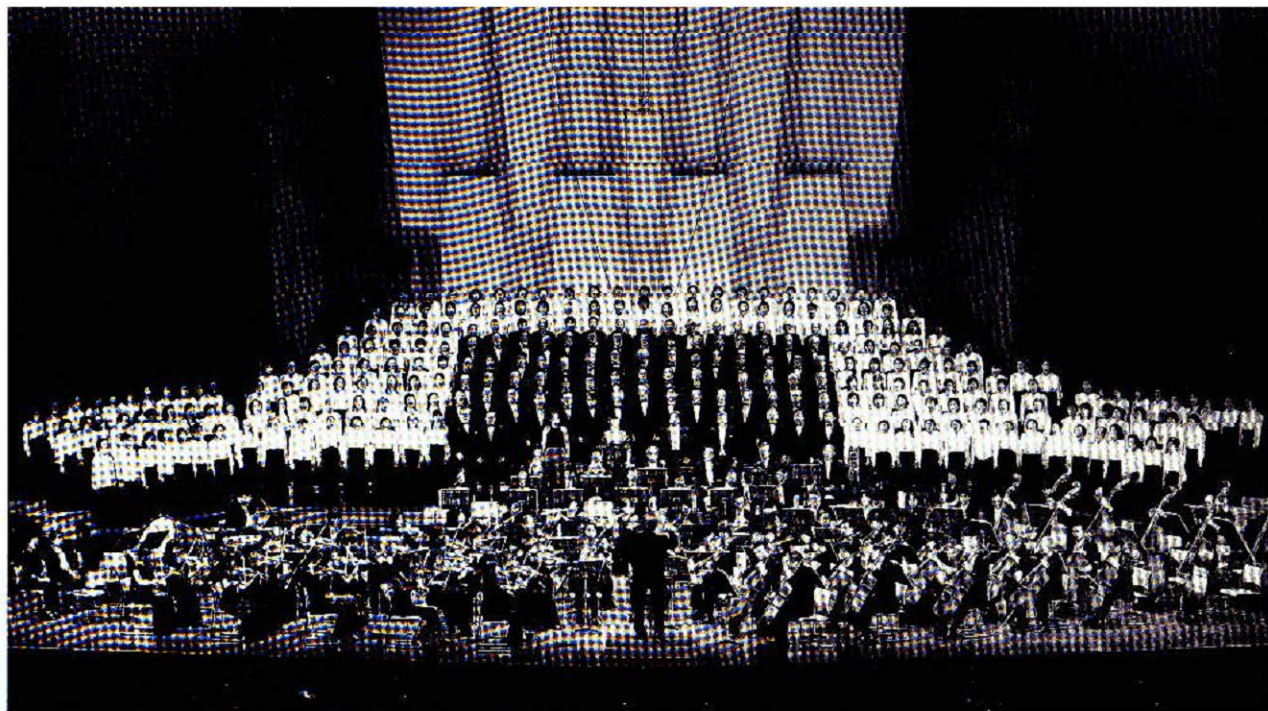
2003年には音楽監督として『東京二葉シンフォニエッタ』を率いドイツ各地で演奏旅行を行い、マスコミ各紙で高い評価を得る。

指揮をホルスト・シュタイン、ミハエル・ギーレン、ワルター・ハーゲン・グロール、作曲を小倉朗、柳澤剛、木村雅信の各氏に師事。

日本大学芸術学部音楽学科講師。

首都オペラ芸術顧問。

日本指揮者協会幹事。



平成16年12月26日(日) 《第22回熊本県民第九の会演奏会(指揮=大山平一郎)》から

三 縄 みどり (みなわ みどり)

ソプラノ



熊本市出身。東京芸術大学卒業、同大学院オペラ科修了。1988年よりイタリアへ短期留学を重ねる。

「ラ・ボエーム」ミミ、ムゼッタ、「フィガロの結婚」伯爵夫人、スザンナ、「カルメン」ミカエラ、「神々の黄昏」ヴォークリンデ、「椿姫」バミーナ、「コシ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージ等、数多くのオペラに主演。「欲望という名の電車」日本初演ではステラを歌い好評を得る。

またオペラコンサートでは「妖精」アーダ、「恋愛禁令」イザベラ「ファルスタッフ」アリーチェ等を歌い高い評価を受ける。

N響、都響、東響、京響、札幌他、各地のオーケストラのもと、ホルストシュタイン、ハインツホリガー、フルネ、コミッション、エッシェンバッハ、秋山和慶、若杉弘、高関健、井上道義など、内外の著名な指揮者と共演。

ベートーヴェン「第九交響曲」マーラー「千人の交響曲」同「交響曲第二番」「交響曲第四番」ハイドン「四季」「天地創造」ブルックナー「ミサ曲第三番」バッハ「マタイ受難曲」「口短調ミサ」モーツァルト「レクイエム」ヘンデル「メサイア」フォーレ「レクイエム」他、数多くのオラトリオ、ミサ曲のソプラノソリストとして活躍している。また現代曲にも意欲的に取り組み、ブリテン「イルミナシオン」シェーンベルク「月に憑かれたピエロ」「弦楽四重奏曲第二番」等も上演する。

またテレビやFMにも出演。歌曲のリサイタルも各地で聞く等、幅広く活躍している。1988年にCD「悲歌」(猪俣隆歌曲集)、「中田喜直を歌う」に参加。

2000年に日本の歌のソロアルバム「ひとりぼっちがたまらなかつたら」をリリース。

二期会会員、日本演奏連盟会員、横浜シティオペラ会員。

妻 鳥 純 子 (めんどり すみこ)

アルト



愛媛県西条市出身、大分県立芸術短期大学卒業。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修了。第42回日本音楽コンクール第3位、海外派遣コンクール松下賞受賞。ミュンヘン音楽大学に留学。藤原武、首藤迪子、ロドルフォ・リッチ、中山優一、フランツ・ミクサ、ヘルタ・テッバー、エレナ・オブラスツォヴァの諸氏に師事。ドイツ語発音法をウタ・クッター氏に師事。オペラでは「カルメン」のメルセデス、「フィガロの結婚」のマルチェリーナ、「修道女アンジェリカ」の公爵夫人、「ヴァルキューレ」のロスヴァイゼ、「椿姫」のアンニーナ、「ジャンニ・スキッキ」のツイータ、「神々の黄昏」の第一のノルン、「エレクトラ」第一の下女、「春琴抄」のしげ女、「祝い歌が流れる夜に」のしまの母親などを演じている。

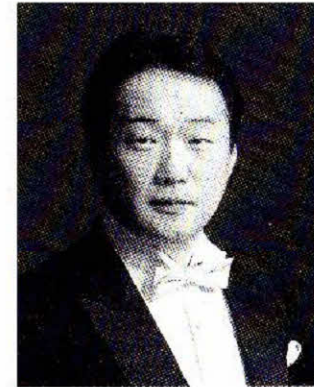
又、コンサートではバッハ「マニフィカート」、「口短調ミサ」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」第九、「マーラー「復活」、ドヴォルザーク「レクイエム」「スタバト・マーテル」などのコンサートに出演する。'92年、'95年、'98年に東宝ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」に修道院長の役を演じ大変好評を得た。1992年(平成4年度)文化庁芸術祭参加で「冬の旅」を演奏。

シューベルト、シューマン、ブラームス、ヴォルフなどドイツリートを中心にしたプログラムでリサイタルを数多く行ってきているが、2003年11月にマーラー、「ツェムリンスキー、シェーンベルク、ウェーヴェルン、J.マルクス、E.W.コルンゴルドの作品で組んだ「ウィーン 二つの音の相貌(かお)」(ピアノ：花岡千香)と題したこのリサイタルはプログラミング、演奏共に大変好評を得る。2003年(平成15年度)文化庁在外研修特別派遣で、シュトゥットガルトにてウタ・クッター教授のもとでドイツ語発音のレッスンを受ける。(平成16年度)「ヴァイルとアイスラーのタペ」(プレヒトをめぐる二人の作曲家)で文化庁芸術祭参加。

玉川大学芸術学部非常勤講師、武蔵野音楽大学非常勤講師。二期会会員、二期会イタリア歌曲研究会会員。

大間知 覚 (おおまち さとる)

テノール



国立音楽大学卒業。同大学院修了。

91年イタリア声楽コンクール第1位受賞、ならびにミラノ大賞受賞。

92年よりイタリアに留学。ヴェルディ国立音楽院に学ぶ。平成12年文化庁在外研修員として再度イタリアに留学。

95年二期会公演、ブッチーニ「3部作」『ジャンニ・スキッキ』のリヌッチョ役に抜擢され二期会デビューを飾る。96年二期会公演『ヴェルディの祭典』に出演。以後『魔笛』タミーノ、「カルメン」ホセ、「ラ・ボエーム」ロドルフォ、「トスカ」カヴァラドッシ、「トゥーランドット」カラフ、「蝶々夫人」ピンカートン、「椿姫」アルフレードと、多彩な演目でプリモをつとめ、当初より持ち味である伸びやかな美声に加えて、表現力においても新たな魅力を身につけ好評を博している。97年には2月に「カヴァレリア・ルスティカーナ」トゥリッドゥ、7月に日韓合流オペラ『リゴレット』マントヴァと2つの二期会公演において立て続けに当たり役を出し、次世代を担う新進テノールとして地歩を固めた。同年には新国立劇場開場記念公演『建・TAKERU』にも吉備役で出演して絶賛された。98年ノーノ「生命と愛の歌」、99年ベルク『ヴォツェック』、同10月ラフマニノフ「鐘」、'00年5月グルリットのオペラ、コンサートと、現代作品についても評価が高い。'01年には、パリ「サル・プレイエル」、ロンドン「バービカンセンター」にてベートーヴェン「第九」に出演、国内外で主要オーケストラ、著名指揮者等と共演している。'02年「遠い帆」ルイス・ソテロ、二期会創立50周年記念公演『椿姫』アルフレードに相次いで好演したの続き、'03回記念公演『カルメン』にホセ、びわ湖ホール開場5周年記念オペラ『シチリアの夕べの祈り』(日本初演)にアリーゴ'04年オペラ彩「ラ・ボエーム」ロドルフォにて出演、好評を得る。本年においては新国立劇場にて二期会オペラ公演『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ役に出演し、演技力と美声において絶賛される。二期会会員。

佐久間 伸 一 (さくま しんいち)

バリトン



東京芸術大学声楽専科及び東京二期会第17期オペラ研究生修了

岩津範和、高橋大満、故・奥田良三の諸氏に師事
1975年渡欧、イタリア国立ヴェルディ音楽院に学び、アルフォンソ・シリオッティ、エットーレ・カンボガリアーニ、アリーゴ・ボロー、アントニオ・ベルトラミの諸氏に師事、ディプロマを授与される。

- ・第5回イタリア声楽コンクール金賞(日本)
- ・ヴェルディ記念ベルガモ国際声楽コンクール第二位(一位該当者なし)(イタリア)
- ・ベニアミーノ・ジューリ国際声楽コンクール第二位(イタリア)
- ・第27回トゥールーズ国際声楽コンクール第三位並びにオペラ特別賞(フランス)

その他、パピア、ローディ、バルマ等の国際コンクールに入賞
十余年の在欧中、マチェラータ野外オペラフェスティバルオペラコンサート、在イタリア日本大使館主催リサイタル(ローマ市)、ヴェルチェッリ市立歌劇場他でのイタリア国立トリノ放送交響楽団イタリアツアーコンサートのオラトリオソリストなどイタリアを中心にヨーロッパ各地にてオペラ、コンサートで活躍する。東京二期会40周年記念オペラ「トスカ」アンジェロッティ役、ヴェルディの祭典他、「ボエーム」「運命の力」「ドン・カルロ」「アイーダ」「リゴレット」「椿姫」「蝶々夫人」「カルメン」「魔笛」、NHK-FM「午後のリサイタル」「フレッシュコンサート」「第九」「メサイア」「レクイエム」など、1973年東京室内オペラ「魔弾の射手」クーノ役でデビュー後、数多くのオペラやコンサートに出演、叙情性豊かな正統派バス歌手として高い評価を受け、数多くの作品で存在感を示している。

1987年帰国、熊本シティオペラを設立、現在まで数々のオペラを中心とした企画、公演を行うと共に、十数年の在欧での活動を土台に後進の指導にも力を注いでいる。

近年では、イタリア(93、97、98年)、韓国(94、95、98年)各公演、99年3月、日本・伊・ハンガリー共同「くまもと20世紀ファイナルオペラ」「アイーダ」(グランメッセ熊本)を公演をプロデュース、成功に導き、イタリア紙「オペラ」に公演を絶賛される。今年、1月「蝶々夫人」11月ローマ市にて日伊親善コンサートを公演した。

- ・第31回熊本県文化懇話会賞受賞
- ・第8回くまもと県民文化賞受賞(熊本シティオペラ)

現在、二期会会員、日本演奏連盟会員、熊本シティオペラ代表

1. 序曲「コリオラン」ハ短調 作品62

ベートーヴェン

2. 交響曲第9番 二短調 作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

第1楽章 Allegro ma non troppo, un poco maestoso

第2楽章 Molto vivace

第3楽章 Adagio molto e cantabile

第4楽章 FINALE

熊本県民第九の会
MESSAGE

熊本県立劇場の落成を祝い、このホールに歓喜の歌の調べが流れて早や四半世紀を迎えようとしています。喜れになると日本各地で第九の演奏会が開催されますが、それも年々少なくなっている様です。幸い熊本は第九を歌いたいと応募される方が毎年300人以上おられます。それにも増してこの第九を楽しみにして聴いて下さる多勢の皆様がいらっしゃいます。実に心強く思います。最初から第九の会のため尽力された方々や支援をして下さる県立劇場、県文化協会、熊本放送等々関係者各位に感謝しよりよい第九の調べをと努力しておりますので皆様のご支援ご来場ご参加を宜しくお願い申し上げます。

「やがて来る旅の終りを知りながら
第九を聴ける幸ぞ嬉しき。」

この句は山鹿市鹿本町にお住いの小山康さんの詩です。小山さんは柿落し以来欠かさず第九を聴いて頂いております。

—お知らせ—

(感動を共にしませんか)

熊本県民第九の会では、毎年6月10日より7月末迄合唱団員の募集をしております。活性化のため若い人大歓迎です。感動を共にしましょう。応募用紙は来年の募集期間中、県立劇場・女性センター・西野楽器・県内の主な文化施設で受け取ることが出来ます。

お問い合わせは… 事務局 草刈秀克 迄
☎ 096-345-7285

「熊本県民第九の会」実行委員会

顧問	下田 宰 城	委員	奥 羽 秀 一	黒葛原	潔
	本 山 洋		神 田 一 伸	林 原 隆 治	
			草 刈 秀 克	藤 本 幸 弘	
委員長	草 刈 秀 士		坂 口 幸 男	松 岡 聡	
			田 北 洋 康	山 崎 崇 伸	

■ シラー 《歓喜に寄す》

対訳=大宮 真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern
lasst uns angenehmere anstimmen, und
freudenvollere.

バリトン独唱
おお、友よ、この調べではなく、
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを
ともに歌おう！

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum !
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt ;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt,

バリトン独唱・合唱
歓びよ、神々のうるわしい輝きよ！
楽園の娘らよ！
われらみな、感動に酔い、
天の高みの神殿に踏み入ろう！
この世に厳しく引き離された者らを、
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。
御身の優しい翼の憩うところ、
すべての者らは、同朋（はらから）となる。

Wem der grosse Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund !
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund !

四重唱・合唱
大いなる天の賜物をうけた者らよ、
真空の友情を勝ち得た者らよ、
女の優しい愛を得た者らよ、
歓びの歌を、ともに歌え！
しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも
地上の友と呼べる者を持つことができるならば！
だが、それさえ持つことのできなかつた者は、
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい！

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur ;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod ;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

四重唱・合唱
すべてこの世に在るものら、
自然の胸から歓びを飲み、
すべての善人も、すべての悪人も、
喜びの薔薇の小径を行く。
歓びは、われらに、口づけと葡萄酒と、
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、
天使ケルビムは、神の御前立つ。

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

テノール独唱・男声合唱
歓びよ、歓びよ、神の太陽たちが、
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、
同朋（はらから）よ、おのれの道をすすめ、
歓びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

Seid umschlungen, Millionen !
Diesen Kuss der ganzen Welt !
Brüder ! über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn überm Sternenzelt !
Über Sternen muss er wohnen.

合 唱
たがいに手をとり合おう、億万の人々よ！
この口づけを、全世界にあたえよう！
同朋（はらから）よ、星のかなたには、
愛する一人の御父が住み給うのだ。
ひれ伏して祈るか？億万の人々よ。
創り主を心に感ずるか？世界の民よ。
星空のかなたに、王をさがし求めよう！
星たちのうえに、主は住み給うのだ！

1. 序曲「コリオラン」ハ短調 作品62

ベートーヴェン

コリオランは、紀元前5世紀ごろのローマの英雄である。紀元前494年にローマが共和政体になるに及んで、政治上の意見の相違により、コリオランは、国外追放となる。2年後隣国ヴォルシアの將軍となったコリオランは、大軍をひきいて故国ローマを攻める。しかし、城門まで迫ったコリオランは、かれの母ヴォラムニアと妻ヴァージリアの諫言により、ついにヴォルシア軍に反旗をひるがえし、再びローマ側につく。けれどその結果は謀殺されることになるのである。

ベートーヴェンが序曲「コリオラン」を作曲したのは、1802年、ベートーヴェンと親しい関係にあり、当時ウィーンの宮廷秘書官で詩人のハインリヒ・ヨーゼフ・コリンの戯曲「コリオラン」の上演が直接の動機となっている。

ただし、序曲「コリオラン」が作曲されたのは1807年であるため、この戯曲の上演のために作曲されたものではない。

ベートーヴェンは、かれの唯一のオペラ「フィデリオ」のために序曲を4曲も書いている。その他の序曲は殆どが劇音楽のものや、バレエ音楽等の序曲である中で、この序曲「コリオラン」だけは全くの独立した序曲である。

曲は、ハ短調というベートーヴェンにとっては、宿命的といえる調性で書かれ、その性格は劇的な内容をもっている。ソナタ形式の第一主題は、音程の上行、下行を繰り返しながら発展するというベートーヴェンのモチーフ作法を採る。これはコリオランの高慢で情熱的な性格を表している。また、優しい第二主題には、その母と妻の姿が描かれ、この2つの主題は見事な対照を見せている。



「第九」の初演でアルトをうたったカロリーネ・ウンガー

2. 交響曲第9番二短調作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目の交響曲に書手した。

1793年、ボンのフィッツェニヒは、シラー夫人の手紙で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボンにいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。このことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、消えたりしていた合唱付きの交響曲の構想が、いつきよに実現することになった。そして1823年から24年にかけて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じつに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大な精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもので、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月7日夜、ウィーンのケルトナート劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、この曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。ベートーヴェンは正指揮者のウムラウフの隣りにあって、実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が起った。特に終曲が終わったとき、成功は決定的となった。満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。しかし、耳の聞こえないベートーヴェンは聴衆を背にしてボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーがかれの袖をひいて聴衆の方を向けたの

で、かれは初めてこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたという。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、警官があわてて聴衆を制したという。

【第一楽章】 Allegro ma non troppo, un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空5度（第三音がない）の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モチーフが生起する。このモチーフが圧縮され、第1主題が澎湃（ほうはい）として沸き起こる巨大な魂のごとく轟然（しょうぜん）たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第2主題は第1主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持をもち、ときどき第1主題の部分をまじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第1主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえぎる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びを勝ち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

【第二楽章】 Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを念む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考えうる限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「歓びの調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである…」と言っている。

【第三楽章】 Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような明るく美しい第2主題は、この両主題にもとづく由由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱（ゆううつ）な感覚へと溶けさせていくことが、思い出がつとに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と言っている。

【第四楽章】 FINALE

第1呈示部=まず管打楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティブでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティブによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現れる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながら全合奏に至る。

第2呈示部=この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめる。ついで合唱がそれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめる。そして男声合唱が、力強く歌いかわる。

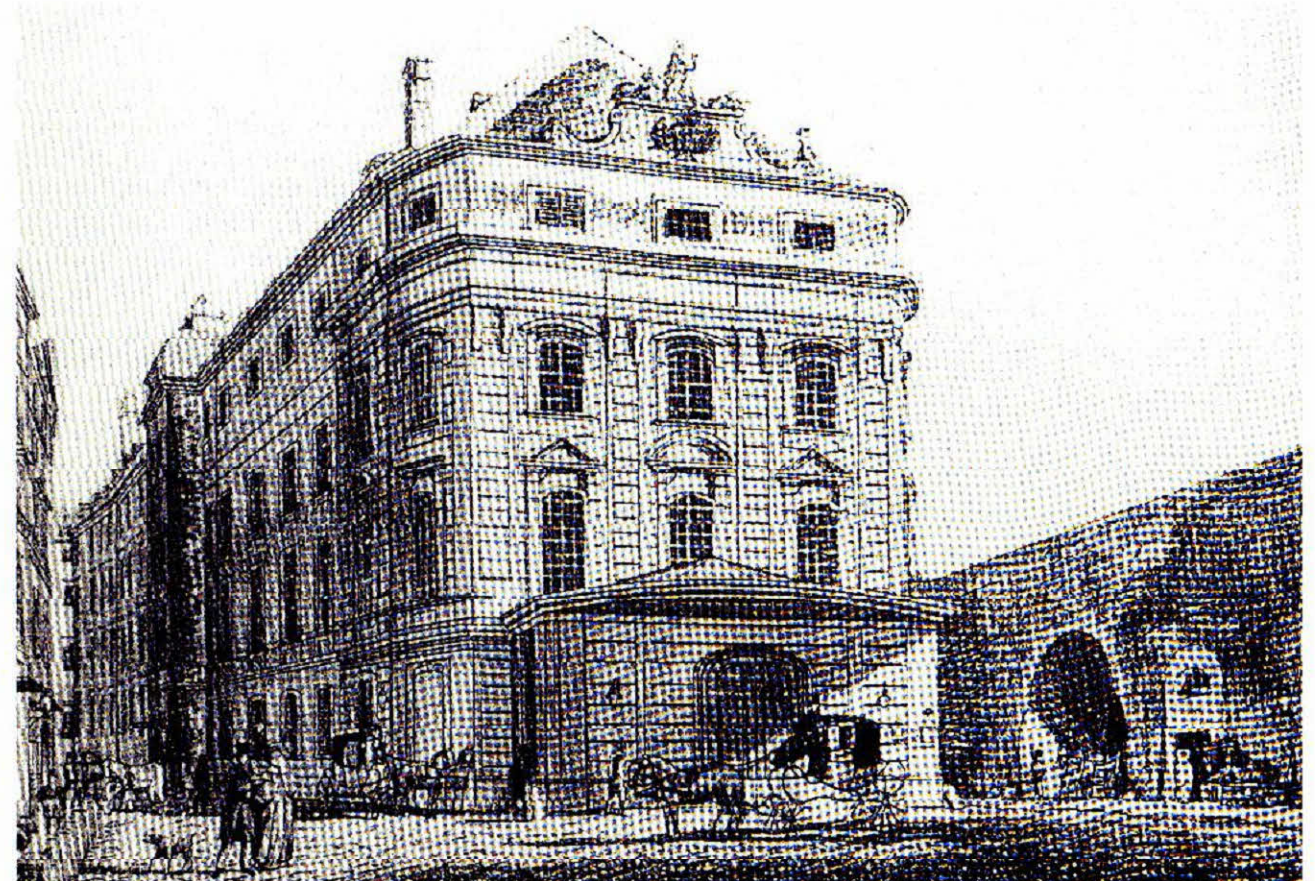
再現部=やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わされて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ=曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストロとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。

- | | | | | |
|-------------------|---|--|---|--|
| Soprano
(ソプラノ) | ②①佐藤淑子
①①島野希子
①①杉本由美子
①①武田尚子
①①田上みゆき
①①近田綾子
①①津留恭子
①①寺澤孝子
①①中村和子
①①中村久代
①①中村志津子
①①富山敬子
①①服部メイ子
①①服部メイ子
①①長谷川栄子
①①馬場圭子
①①東恵子
①①藤田悦子
①①前田弥生
①①松川千晶
①①松門寺阿古
①①宮本恵子
①①宮本はつみ
①①宮本奈都美
①①宮本弘子
①①山本美穂子
①①矢住ハツノ
①①横田味詠子
①①谷口登紀子
①①吉富ちとせ | 柳田恵子
生田朱美子
沖米田恵子
小田原純子
倉田美穂子
芝原登美子
寺園道子
弘松佳子
水野和子
廣重邦子
平野玲子
村上美千代
明石瑠璃子
伊藤律子
井野亮子
今井亮子
岩坂美紀子
上村美穂子
菊池恵美子
菊池吟子
清川光乃子
工藤敏代子
後藤佳子
斎藤恵子
斎藤寿子
白石奈央子
田上冷子
内藤邦子
中垣紀美恵子
中山弘子
樋口弓子
船越絹代子
松尾留美子
益田裕子
益田嘉子
南浩子
愛甲訓子
安部桂子 | ①①池田三佐子
①①今村峯子
①①上野典子
①①上野亮子
①①江崎恭子
①①方満喜子
①①大久保庸子
①①大久保喜三子
①①大谷葉子
①①大塚喜久子
①①大塚幸子
①①岡追子
①①大隈由紀子
①①小田順子
①①小山智子
①①小山智美子
①①金澤千枝子
①①川崎節子
①①川上喜久子
①①木原美智子
①①北原雅子
①①清原幸子
①①草刈登喜代子
①①久保久美子
①①倉岡睦子
①①古賀紀久子
①①坂本章子
①①重村節子
①①柴田道子
①①杉本弘子
①①高浜令子
①①高比良栄子
①①田川珠恵子
①①竹田綾子
①①竹下敬子
①①田島博美子
①①田尻了子
①①玉井直子
①①塚本和子
①①辻幸子 | ①①中野俊子
①①長橋葵子
①①野中久子
①①野田達子
①①野田泰子
①①橋口等子
①①濱田美也子
①①馬場和美子
①①林和真理子
①①東実子
①①平井実子
①①平嶋かずこ
①①廣田節子
①①福原邦子
①①藤原美智子
①①古田美枝子
①①星崎文代子
①①牧嶋留美子
①①正木恒子
①①松本美知子
①①松村恵美子
①①松山典子
①①峯田道子
①①宮本裕子
①①村上博子
①①森敬子
①①森幸子
①①扶美代
①①利内洋子
①①山下富江子
①①安田昭子
①①山本淳子
①①山邊千代子 |
| Tenor
(テノール) | ①①西垣洋
①①西口明弘
①①間賢一
①①藤嶋浩三
①①松尾眞亨
①①宮本一英
①①矢上弘二
①①山田弘二
①①吉勇弼
①①吉田幹男
①①岩崎正博
①①井芹良昭
①①上村哲也
①①植村芳樹
①①江島正彬
①①小塚基夫
①①坂口幸男
①①潮崎真一
①①高倉正純 | ①①大塚邦和
①①神田一伸
①①菊川英臣
①①菊池建朗
①①菊池忠孝
①①幸田祐一
①①後藤雅章
①①島田良代
①①田畑亨
①①田尻淳一郎
①①永田進
①①西本一成
①①野中誠二
①①福池淳一郎
①①福川賢夫
①①前川津紀雄
①①松本昭
①①宮井甲矢夫
①①米村守
①①左座清治
①①河野清治 | Bass
(バス) | |

- | | | | |
|-----------------|---|--------------|--|
| Tenor
(テノール) | ①①西垣洋
①①西口明弘
①①間賢一
①①藤嶋浩三
①①松尾眞亨
①①宮本一英
①①矢上弘二
①①山田弘二
①①吉勇弼
①①吉田幹男
①①岩崎正博
①①井芹良昭
①①上村哲也
①①植村芳樹
①①江島正彬
①①小塚基夫
①①坂口幸男
①①潮崎真一
①①高倉正純 | Bass
(バス) | ①①大塚邦和
①①神田一伸
①①菊川英臣
①①菊池建朗
①①菊池忠孝
①①幸田祐一
①①後藤雅章
①①島田良代
①①田畑亨
①①田尻淳一郎
①①永田進
①①西本一成
①①野中誠二
①①福池淳一郎
①①福川賢夫
①①前川津紀雄
①①松本昭
①①宮井甲矢夫
①①米村守
①①左座清治
①①河野清治 |
|-----------------|---|--------------|--|



「第九」の初演が行われたケルトナー・ア劇場

※10回以上の参加者を紹介します。(氏名の前の○印の数字が出演回数です)

〈コンサートマスター〉 鶴 和美

〈1stヴァイオリン〉

荒瀬 由香
鬼塚 雅子
佐藤 弘美
高木 恭子
田北 洋子
鶴 和美
長坂 浩子
中山 文
西林 正己
原 雅子
藤本 佳澄
山口 みゆき
柚原 三弥子

〈ヴィオラ〉

荒木 拓実
池辺 京子
緒方 肇
②桂 敦子
甲田 啓子
辰野 陽子
黒葛原 潔
水田 剛
山崎 崇伸
吉田 美智子

〈コントラバス〉

桑原 寿哉
古泉 俊彦
国米 稔
坂田 英津子
白木 信一郎
高木 美緒
田上 博子
吉浦 勝喜

〈フルート〉

大橋 みのり
椎葉 暁子
高濱 龍一郎

〈ホルン〉

奥羽 秀一
奥羽 朋子
斎藤 恵之
田中 禎子
野村 梢

〈トランペット〉

市原 彰
豊田 恭司
永廣 正治

〈トロンボーン〉

梅田 雄介
佐藤 奈々絵
西 亮祐

〈クラリネット〉

黒木 健次
畑中 亮二
原 敏郎
笠 千帆

〈ファゴット〉

〈コントラファゴット〉

小田 穂積
片山 伸生
田村 聡司
徳永 賢一
常松 真子

〈チェロ〉

奥野 聡
槌田 博文
長尾 和治
永倉 照恵
長坂 輝喜
野島 秀司
佛淵 かつよ
佛淵 信夫
本田 義信
松永 尚子
三浦 純子
右田 晴久

〈2ndヴァイオリン〉

荒瀬 麻里
岡 純子
置田 みどり
佐々木 信恵
汐月 哲夫
新川 友香子
高木 信雄
竜口 明佳
龍野 珠美
谷川 くみ子
田中 真由美
田上 るみ子
②黒葛原 契子
黒葛原 康子
②東 真知子
本山 洋

- 第1回 昭和57年12月28日(火)
指揮/山田 一雄 独唱/新 圭子 木村 宏子 伊豆野 修 高橋 修一
※越天楽(雅楽).....近衛秀麿(編曲)
- 第2回 昭和58年12月11日(日)
指揮/大友 直人 独唱/高見久美子 岡 ますみ 大野 光彦 柴田 啓介
※楽劇「ニルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲.....ワーグナー
- 第3回 昭和59年12月27日(木)
指揮/山岡 重信 独唱/中沢 桂 木村 宏子 板橋 勝 池田 直樹
※弦楽のためのアダージョ 作品11.....バーバー
- 第4回 昭和60年12月25日(木)
指揮/フジイェック・ワナル 独唱/三縄みどり 妻鳥 純子 伊達 英二 中村 邦男
※序曲「レオノーレ」第3番 八長調 作品72a.....ベートーヴェン
- 第5回 昭和61年12月27日(火)
指揮/荒谷 俊治 独唱/津下美奈子 木村 宏子 鈴木 寛一 芳野 康夫
※トッカータとノクターン 二短調.....バッハ〜ストコフスキー
- 第6回 昭和62年12月26日(土)
指揮/安永武一郎 独唱/中沢 桂 木村 宏子 近藤 伸政 栗林 義信
※「エグモント」序曲 へ短調 作品84.....ベートーヴェン
- 第7回 昭和63年12月25日(日)
指揮/安永武一郎 独唱/三縄みどり 木村 宏子 鈴木 寛一 平野 忠彦
※序曲「コリオラン」八短調 作品62.....ベートーヴェン
- 第8回 平成元年12月24日(日)
指揮/小松 一彦 独唱/秋山恵美子 木村 宏子 成田 勝美 高橋 啓三
※「プロメテウスの創造物」序曲 作品43.....ベートーヴェン
- 第9回 平成2年12月23日(日)
指揮/初山 和明 独唱/山田 綾子 木村 宏子 大野 徹也 福島 明也
※「ロザムンデ」序曲 作品26.....シューベルト
- 第10回 平成3年12月23日(日)
指揮/安永武一郎 独唱/西森 由美 木村 宏子 田中 誠 宮原 昭吾
※「エグモント」序曲 へ短調 作品84.....ベートーヴェン
- 第11回 平成5年12月23日(木)
指揮/荒谷 俊治 独唱/河添 富士子 春日 成子 小林 彰英 栗林 義信
※楽劇「ニルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲.....ワーグナー
- 第12回 平成6年12月24日(日)
指揮/金 洪才 独唱/岩永 圭子 妻鳥 純子 齋場 知昭 勝部 太
※「エグモント」序曲 へ短調 作品84.....ベートーヴェン
- 第13回 平成7年12月24日(日)
指揮/金 洪才 独唱/西森 由美 妻鳥 純子 大島 博 大島 幾雄
※モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」k.618.....モーツァルト
- 第14回 平成8年12月23日(月)
指揮/本名 徹二 独唱/河添富士子 妻鳥 純子 大間知 覚 瀬戸口 浩
※カンタータ第147番より「コラール」主世、人の望みの喜びよ BWV147...J.S.バッハ
- 第15回 平成9年12月21日(日)
指揮/金 洪才 独唱/志岐由理子 妻鳥 純子 牧川 修一 小川 裕二
※序曲「コリオラン」八短調 作品62.....ベートーヴェン
- 第16回 平成10年12月20日(日)
指揮/井崎 正浩 独唱/佐々木典子 岩森 美里 井ノ上 了史 瀬戸口 浩
※序曲「レオノーレ」第3番 八長調 作品72a.....ベートーヴェン
- 第17回 平成11年12月19日(日)
指揮/レオ・クレマー 独唱/水野 貴子 青山智英子 持木 弘 松本 進
※「エグモント」序曲 へ短調 作品84.....ベートーヴェン
- 第18回 平成12年12月23日(土)
指揮/金 洪才 独唱/河添富士子 妻鳥 純子 大間知 覚 大島 幾雄
※歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b.....ベートーヴェン
- 第19回 平成13年12月23日(日)
指揮/田代 詞生 独唱/佐々木典子 青山智英子 井ノ上 了史 松本 進
※歌劇「魔弾の射手」序曲.....ウェーバー
- 第20回 平成14年12月22日(日)
指揮/松尾 葉子 独唱/三縄みどり 杉野 麻美 米澤 傑 瀬戸口 浩
- 第21回 平成15年12月21日(日)
指揮/井崎 正浩 独唱/佐々木典子 大林 智子 米澤 傑 松本 進
※喜歌劇「こもり」序曲.....J.シュトラウス
- 第22回 平成16年12月26日(日)
指揮/大山平一郎 独唱/安藤赴美子 一色 礼子 五十嵐 修 木村 俊光
※「エグモント」序曲 へ短調 作品84.....ベートーヴェン

※②は今回20回目の出演を表します。

270人 歓喜の大合唱

県立劇場 恒例の「第九」演奏会



見事なハーモニーを響かせたベートーベン「第九」演奏会
—25日夜、県立劇場 (内田秀夫)

年末恒例のベートーベン「第九」演奏会が二十五日夜、熊本市大江の県立劇場であり、県内の合唱愛好家約二百七十人による「歓喜」の大合唱が響いた。県民第九の会(草刈秀十実行委員長)などの主催で二十三回

年未恒例のベートーベン「第九」演奏会が二十五日夜、熊本市大江の県立劇場であり、県内の合唱愛好家約二百七十人による「歓喜」の大合唱が響いた。県民第九の会(草刈秀十実行委員長)などの主催で二十三回

管弦楽は熊本交響楽団約八十人。合唱には、熊本市や山鹿市、人吉市などの高校生から八十歳代までが参加。クライマックスの四楽章でシラーの詩「歓喜に寄す」の一節をドイツ語で高らかに歌い上げる

宮内庁は二十六日付で、来年一月十二日に皇居・宮殿で行われる「歌会始の儀」に招待され、歌が詠み上げられる一般の入選者十人を発表した。今回のお題は「笑み」。天皇陛下から特別に招かれ歌を披露する召人(めしうど)は歌人森岡貞香さん(六)が選ばれた。

入選者のうち、山口県下関市の元市立図書館長中西輝磨さん(七)は一九八七年に続いて二回目。東京都港区の会社員醍醐和さん(六)は八二年に佳作に選ばれている。十人は七十代と六十代が四人

新春「歌会始の儀」 一般入選10人発表

宮内庁

と、会場から盛大な拍手が送られた。第九の演奏会は一九八二(昭和五十七)年の県立劇場開館を記念してス

と、会場から盛大な拍手が送られた。第九の演奏会は一九八二(昭和五十七)年の県立劇場開館を記念してス

と、会場から盛大な拍手が送られた。第九の演奏会は一九八二(昭和五十七)年の県立劇場開館を記念してス